

しょうわ つうしん *Show-a* 通信

2025.10
第35号

北海道消化器科病院は消化器病分野の最先端治療で地域医療に貢献しています

医療法人彰和会の「彰和（Showa）」と明らかにするという意味の「Show」を合わせて、「Show-a通信」としました。
私たちの仕事をお知らせすることで、消化器科領域の最新医療をお伝えします。

切除不能進行胃がんにも有効
免疫チエツクポイント阻害薬を
使った治療

切除不能進行胃がんにも有効 免疫チェックポイント 阻害薬を使った治療

がん治療の新たな選択肢として肺がん治療で画期的な効果を示していた「免疫チェックポイント阻害薬」の適応が拡大され、切除が困難な進行胃がんや食道がんにおいて使用が可能になりました。当院ではより高い治療効果を目指して「抗がん剤や分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬を組み合わせた併用療法」を、2022年1月から実施しています。

**進行胃がんや食道がんの
新たな治療選択肢**

免疫チェックポイント阻害薬は、患者さん自身の免疫の力を高め、がん細胞を攻撃する新しいタイプの薬です。がんの三大治療には「手術」「薬物療法」「放射線治療」がありますが、免疫チェックポイント阻害薬は「薬物療法」の一つとして、日本胃癌学会でも科学的根拠（エビデンス）に基づき推奨しています。

当院では、従来の薬物療法が効かなかった切除不能な進行胃がんに対して、免疫チェックポイント阻害薬が効果を発揮し、長期に緩解した症例や根治切除が可能となった症例を経験しています。

ただし、全ての患者さんに効果があるわけではありません。がん細胞にPD-L1というタンパク質が多く発現しているほど治療効果が高いことが知られているため、当院では薬物療法を受けられる患者さん全員に病理組織検査を行い、有効性を事前に評価しています。

体内にある免疫細胞は、正常細胞は攻撃せず、異常細胞だけを攻撃します



がん細胞には正常細胞を装うことができるPD-L1があることから、攻撃を回避し増殖します

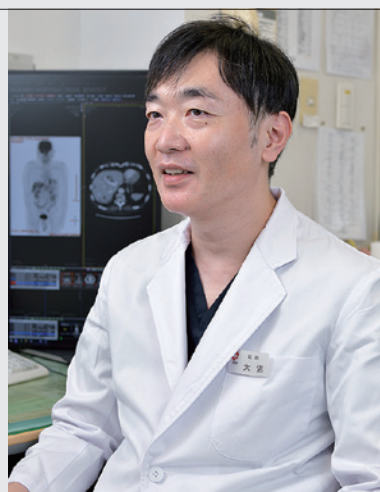


「免疫チェックポイント阻害薬」は、がん細胞のPD-L1を持続的に阻害（遮断）し、免疫細胞が、がん細胞を攻撃できるようにします



抗がん剤との併用で 高い治療効果

免疫チェックポイント阻害薬は、抗がん剤や分子標的薬、放射線治療と組み合わせること、さらに高い効果が得られることが報告されています。現時点では一部の医療機関でのみ提供されている治療ですが、当院では専門スタッフ体制を



北海道消化器科病院
消化器内科部長 **大沼 啓之**

札幌医科大学卒
北海道がんセンター、小樽掖済会病院、札幌医科大学付属病院を経て、2025年4月から現職

【学会認定資格など】

日本内科学会認定医・専門医
日本消化器病学会専門医・指導医
日本消化器病学会評議員・北海道支部評議員
日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
日本消化器内視鏡学会北海道支部評議員
日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医
日本臨床腫瘍学会評議員
日本肝臓学会専門医
日本がん治療認定医機構認定医
札幌医科大学医学部臨床教授
日本大腸検査学会北海道支部幹事・評議員

整え、適切な評価と管理を行いながら、安全かつ効果的な併用治療を行っています。これまで有効な治療法がなかった患者さんの新しい選択肢として、免疫チェックポイント阻害薬は「腫瘍の縮小・消失」「進行の抑制」「生存期間の延長」「生活の質の維持・改善」が期待できます。

症例 進行胃がん

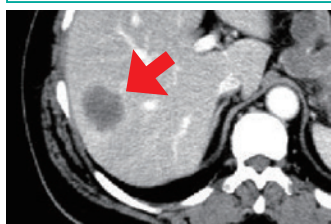
「免疫チェックポイント阻害薬」の追加で 病変部が著しく縮小

※当院では、免疫チェックポイント阻害薬のニボルマブ（商品名：オプジーボ®）、もしくはペムブロリズマブ（商品名：キイトルーダ®）を、患者さんの体質に合わせて選択しています

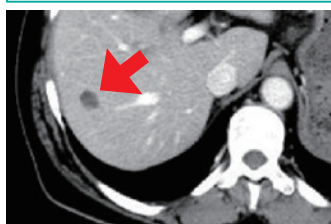
肝転移

胃がん主病変

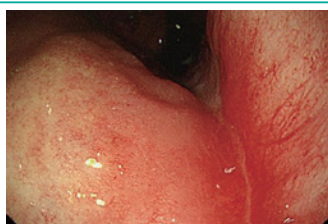
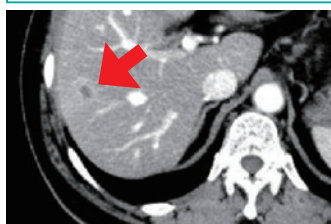
治療前



抗がん剤「S-1」と「オキサリプラチン」、分子標的薬「ハーセプチン」を1回投与後、休薬期間を経て2回目を投与（2コース）



さらに免疫チェックポイント阻害薬「ペムブロリズマブ」を追加し、2コースで投与



がん治療の薬が効いているか、副作用が出ているかを患者さんに直接関わりながら確認しています。副作用が現れた場合は医師とディスカッションし治療薬の変更や適切な選択を行います。

患者さんの治療への思いや希望に寄り添った姿勢を持ちながら、仕事や趣味と無理なく両立できるように支援します。

外来がん治療 認定薬剤師

迅速に
患者対応を
行います



朝倉 幹己 田中 耕太 藤林 遼 山田 将悟

治療の流れ

病理組織検査で腫瘍における「PD-L1」の発現割合（免疫組織化学染色で算出）を確認し、免疫チェックポイント阻害薬の効果を予測し治療計画を立てます。

入院（約1週間）

併用療法（点滴や内服）を開始します。投与中は血圧や脈拍をモニタリングし、予期せぬ副作用や合併症がないかを観察します。

外来（化学療法室）

通院治療に切り替えます。血液検査や診察を行ったうえで外来で点滴投与を受け、自宅で抗がん剤の服用を継続します。

北海道消化器科病院で がんの薬物療法に関わる主な職種

日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医
緩和ケア医
がん薬物療法看護認定看護師
外来がん治療認定薬剤師
病理専門医
放射線治療専門医



がん薬物療法看護 認定看護師

24時間の
サポート体制が
あります



平下 麻美

がん治療薬の投与中や投与後は副作用（発疹や発熱、吐き気など）の有無や程度を適宜確認しています。

帰宅後に、患者さんが「いつもと違う」と感じたり、体調に変化があった場合は夜間および休日も、看護師や当直医が対応しています。患者さんには注意要点や連絡先を記載した「化学療法室のご案内」をお渡ししています。

放射線部

CT装置を最新モデルに更新

AIを駆使した高精細画像で診断の質が向上しました

2025年5月、CT装置を64列CT装置

「Revolution Ascend Elite（レボリューション・アセンド・エリート）」に更新しました。

これまでのCT装置と比べ、検査工程にAI（人工知能）や自動化の技術が採用され、煩雑だった検査手順がスムーズになりました。検査時間も短縮され、患者さんの負担

軽減につながっています。

新装置の特長は、高性能AIカメラによって、患者さんの体位を正確に認識して自動で位置合わせが行えることです。トンネル径が大きく、患者さんの体格を問わず、必要最低限の放射線量で迅速に撮影ができます。

さらに、AI技術を駆使した高精細画像が得られるため、臓器や異常所見を明瞭に描出することが可能です。診断に有用な高品質な画像を読影医師に提供しています。

中村吉志技師長は「患者さんの負担を減らしつつ、より精密な検査が可能です。最新のテクノロジーを活用したCT検査で、がんの早期発見に貢献したいと考えています」と話しています。

特徴

- AIと自動化技術によって、検査時間が短縮
- これまでより少ない放射線量で検査が可能
- 高精細画像が得られ、読影・診断の質が向上



64列CT装置「Revolution Ascend Elite」（ゼネラル・エレクトリック社）製



全スタッフ9人が「安全な検査」を提供しています



AI技術を駆使した高精細画像が得られます

北海道消化器科病院では「医療者の手術見学」を積極的に受け入れています



医療法人 彰和会
HGH 北海道消化器科病院

消化器内科、腫瘍内科、内科、緩和ケア内科、消化器外科、外科、肛門外科、放射線科、麻酔科、病理診断科

- 設立：1988年2月20日
- 住所：札幌市東区本町1条1丁目2番10号
- 電話：011-784-1811 □ FAX：011-784-1838
- ホームページ：http://www.hgh.or.jp/
- 病床数：177床